

会場ごとの主な質疑等一覧

※会場別に類似している質疑等については、まとめてあります。

令和5年11月24日（金）18：30～20：15 中央公民館（富津市） 来場者：41人

質疑等	回答
事業統合したことによりスケールメリットがあるということだが、水道料金が上がるのはなぜか。	電気代等の物価高騰により、諸経費が増加しているため。
民間委託はヨーロッパで失敗しているが、その点どう考えているのか。	現在は全面的な委託は考えていない。料金徴収等の一部の業務を委託している。
専門的な知識が無くても点検や更新が楽になると思われるので、耕作地や山林地などは露出配管を設置してはどうか。	土地所有者の同意を得る必要があり、露出配管の設置については困難である。
広域化の達成状況はどうか。また、県域化についての現状と将来についてはどうか。	広域化の達成状況については、現在、統廃合事業を進めており、木更津市域の上烏田浄水場について、配水池を耐震化し建て替えることにより、君津市域の久保配水区域を周りの3区域に取り込むことが出来る。 県域化については、コスト面や地形面などを考慮し、検討する必要があるが、現状は今のかずさ4市の統合が、一番スケールメリットが出しやすい形となっている。
富津市域について料金改定を行わないで済むには、富津市からの営業助成補助ほどの程度必要か。	概算であるが5年間で、9億円が必要である。

令和5年11月26日（日）18：00～20：10 長浦公民館（袖ヶ浦市） 来場者：21人

質疑等	回答
要望であるが、説明資料について和暦だけではなく、西暦も入れてほしい。和暦では分かりづらい。	今後の資料作成時に検討する。
水道は元々市でやっていた。なぜ統合したか。	各市それぞれの課題があり、統合することにより、国からの統合交付金や、4市からの出資金などを活用して、事業を行い、将来にわたって安定した給水を行うことを目的に統合した。
値上げが市民にどれほど周知されているのか。	11月下旬から12月下旬にかけて、4市で14回説明会を開催する予定である。1月の中旬にかずさ水道の広報紙特集号を新聞折込し、2月には各市の広報紙にも掲載を予定している。また、当企業団のホームページや各市のホームページ等でも周知している。

<p>いずれ4市の料金は統一するとのことであるが、料金統一するとどこかが下がって、どこかが上がるという、単純に考えればそう思うが。下がるほうは良いが、上がるほうはどうして上がるのか、統合メリットを教えてください。</p>	<p>令和11年度に4市域の料金を統一した時は、木更津市域、君津市域、袖ヶ浦市域については上がる予定になる。</p> <p>統合メリットとしては、すべての団体において統合交付金や、4市からの出資金を活用し、工事を加速して進めている。また、統合することによって、統合前より職員数を削減するなど、効率化できるメリットがある。このメリットを活かすことで、袖ヶ浦市単独で事業を行った場合の料金よりも、統合して事業を行った場合の料金のほうが安くなるということで統合している。統合メリットを発揮できるよう、これまでも業務に取り組んでいるが、更なる効率化等を目指し、次の料金統一時に料金が単独でやった場合よりも下がっている、ということの説明できるよう業務に取り組んでいく。</p>
<p>かずさ水道の有効率は86.2%ほどであるとのことだが、残りの14%は漏水ということか。</p> <p>これは全国的に見たら多いのか、少ないのか。</p>	<p>14%は水が漏れてしまっているということ。</p> <p>当企業団の類似団体の平均は約92%であり、平均と比べると6%ほど少ないのが現状である。この有効率を高めるために水道管の更新を進めているところである。</p>

令和5年11月30日（木） 18:30～20:35 根形公民館（袖ヶ浦市） 来場者：16人

質疑等	回答
<p>今回袖ヶ浦市域において、料金改定をしないために必要となる営業助成補助金はいくらか。</p>	<p>概算であるが5年間で、9億円が必要である。</p>
<p>「広域連合ビジョンについて（概要）」の14ページに財政収支見通しがあるが、円グラフにある資本的収支の赤字額はどう補うのか。</p>	<p>資本的収入の485億円については、主に国の補助金などで、資本的支出の922億円については、主に工事費用になる。差し引きの資本的収支不足額の437億円については、損益勘定留保資金等での補てんとなる。</p>
<p>資料について、棒グラフなどの表だけでなく、詳細な数字を確認したい。</p>	<p>詳細な数字の記載がある広域連合ビジョンを年度内に公表予定である。</p>
<p>「水道料金の改定について」の12ページで、統合交付金121億円となっているが、現状どれだけもらっているのか。</p> <p>また、10年間の4市の内訳はいくらか。</p>	<p>令和元年度から令和4年度までの実績で、4市域合わせて約32億円である。</p> <p>10年間の4市域の内訳については、木更津市域は約51億円、君津市域は約33億円、富津市域は約23億円、袖ヶ浦市域は約14億円である。</p>
<p>水道用水供給事業で取水している川の上流には、産廃場などがあり、現在の位置の浄水場は安全安心な浄水場と思っているのか。何が起るかと冷や冷やししながら、小櫃川の下流の浄水場で取水し飲料水を作るより、上流に移転すべきだと思う。</p>	<p>取水する前の水である原水としては、定期的に49項目の検査を行い、安全を確認している。また、浄水した水は日々検査を行い、利用者へ安全な水を届けている。</p> <p>なお、浄水場の移転については、財政的に多額の費用を要するため検討はしていない。</p>

令和5年12月2日(土) 14:30~15:40 上総地域交流センター(君津市) 来場者:4人

質疑等	回答
<p>統合交付金の具体的な対象事業について教えてほしい。</p>	<p>具体的な対象事業としては、老朽管の更新や統合に伴って行う施設の統廃合事業などが対象となる。また、統合前よりも工事量を増やした分についても、統合交付金の対象となる。</p> <p>なお、4市域の工事だけではなく、水道用水供給事業の工事にも統合メリットとして、統合交付金を活用している。</p>
<p>自己水源と水道用水供給事業の受水によって事業を行っているが、各市域の自己水源の比率などを教えてほしい。</p>	<p>各市域の受水割合の現状について、令和4年度末の時点で、木更津市域は86.3%で水道用水供給事業から受水している。君津市域は66.7%で木更津市域より低い形になっているが、その分統合前から持っていた自前の井戸や浄水場などを活かしている。富津市域は87.5%、袖ヶ浦市域は78.4%が受水となっている。4市域平均では80.12%となり、君津市域は66.7%であるため他市域より自己水源が多い形である。</p>
<p>有収水量と有効率の関係で、資料の中に有効率は86.2%と記載があるが、有収水量は令和6年度から30年間で13%減少していくとあり、有効率も同様に下がるのか教えてほしい。</p>	<p>有収水量が13%減ることについては、漏水が増えて有効率が13%下がっていく概念ではなく、人口減少や使用水量の減少が見込まれているため、4市域合計の平均で13%使用水量が減っていく見込みである。</p>
<p>経営基盤の強化の関係で、水道料金の統一については5年後目指しているようだが、各市域の料金体系がバラバラで経営状況も市域ごとに区分して表されているが、概略説明をしてほしい。</p>	<p>料金水準では富津市域が1番高く、次が君津市域で、現在はその次に木更津市域となり、1番低いのが袖ヶ浦市域になっているが、今回の水道料金改定で袖ヶ浦市域が木更津市域を追い越して、袖ヶ浦市域が3番目の料金水準となる。</p> <p>各市域の料金体系もそれぞれ異なり、例えば木更津市域や君津市域について、口径13mmと20mmの基本料金は同じ金額になっているが、富津市域や袖ヶ浦市域については、口径13mmと20mmの基本料金は異なる金額になっている。</p> <p>また、5年後に料金統一を目指しているが、重要になってくるのが供給単価である。4市域の統一単価をどこのラインにするのが課題になってくる。なるべく低いところでの統一単価を検討したいと考えている。</p>

令和5年12月3日(日) 14:30~16:03 木更津市民会館(木更津市) 来場者: 35人

質疑等	回答
<p>「水道料金の改定について」の6ページにあるグラフについて、令和10年度まで記載があるが、令和11年度以降の純利益はどうか教えてほしい。</p>	<p>「広域連合ビジョンについて(概要)」の14ページに記載があるが、純利益については、令和11年度に料金統一を予定しているため、「水道料金の改定について」の6ページにあるグラフよりは上がっていくシミュレーションとなっている。</p>
<p>管路更新はしているものの、有効率が上昇していないのはなぜか。</p>	<p>現状、漏水多発地区の管路更新を行っているが、現在のところ効果として表れていない。 今後は、人工衛星を活用した漏水調査などの新技術を活用し、漏水の早期発見に努める。</p>
<p>全国的に見た時に、水道料金はどうなっているか。</p>	<p>口径13mmで1か月あたり20m³使用した際の全国平均が3,334円で、千葉県内の平均が3,748円である。 令和6年度以降の料金改定後は、4市域とも全国平均、県内平均を上回っている。 袖ヶ浦市域は4,202円、木更津市域は改定が無いが4,290円となる。袖ヶ浦市域の方が安いということになるが、これは口径13mmの料金で比較しており、袖ヶ浦市域は口径13mmの基本料金が口径20mmより安いいためこのような結果になっている。君津市域は5,252円、富津市域は5,472円である。</p>
<p>全国平均と比較して、水道料金が低いのはなぜか。</p>	<p>高い理由としては、亀山ダムや片倉ダムより取水しているが、維持管理費等の費用が掛かること。また、給水区域が広いため配水管が長いことや、山が多数あり高低差がある場所については、ポンプ設備等の維持管理費が掛かること。こういった理由により、水を作るための費用が高くなっている。</p>
<p>スマートメーターの導入を検討しているようだが、今後の普及などの計画を教えてください。</p>	<p>スマートメーターなどの先進技術の導入については、今回の広域連合ビジョンにも記載があるが、現在は具体的な実施時期などの計画は未定であり、これから研究していくものである。</p>

令和5年12月6日（水）18：30～19：40 清和公民館（君津市） 来場者：4人

質疑等	回答
<p>説明の中で、漏水多発地区とあったが、具体的にどういった地区のことか。</p>	<p>漏水する箇所は、市域によって特徴がある。君津市域の場合は塩化ビニル管が漏水しやすい特徴がある。 漏水多発地区としては、昭和40年代から宅地開発を行ったところである。具体的には、街中が多いが、他方で、塩化ビニル管は君津市域では多数使用していて、埋設した際の地質が固い箇所は、漏水しやすい特徴があり、漏水自体は広範囲で発生している。</p>
<p>水道料金が異常に増えた際は、以前であれば市の水道局に連絡すれば良かったが、今はかずさ水道広域連合企業団に連絡すれば良いのか。</p>	<p>その際は、かずさ水道広域連合企業団に連絡いただくか、君津駅近くにある君津営業所の方へ連絡してほしい。連絡先は検針票や広報紙などに記載してある。</p>

令和5年12月7日（木）18：30～20：45 袖ヶ浦市民会館（袖ヶ浦市） 来場者：26人

質疑等	回答
<p>「水道料金の改定について」の9ページについて、袖ヶ浦市の毎年の支出額が約20億円であるが、この数値が他の3市と比較して高いのではないか。 水道管の管路延長1kmあたりで比較すると、袖ヶ浦市が最も高く君津市の1.4倍になる。袖ヶ浦市は老朽管が少なく、漏水件数が少なく、修繕費は少ないはずである。袖ヶ浦市が高い理由を教えてください。</p>	<p>水道管路延長単位あたりの支出額、人数あたりの支出額等で比較すると袖ヶ浦市域が最も高くなっている。 袖ヶ浦市域が高い理由は、今まで整備を進めてきた結果として、主に「減価償却費」と「企業債の利子の支払い」が多いためである。</p>
<p>4市管内のうち、特に富津市の人口減が深刻で、年内または年明け早々に4万人を切りそうで、4市全体を見た場合は、人口減少傾向にあり水需要は減る一方であるが、市の地域活性化や企業誘致などの施策との整合性はどうか考えているのか。</p>	<p>水需要の減少は経営に直結するため、市の総合計画等の施策と整合性をとりながら事業を展開していきたいと考えている。</p>
<p>川崎市水道局のホームページ資料では、毎年800kmにわたる漏水探知機を使用した調査を実施していると記載されている。かずさ水道広域連合企業団では、このような検査をどの程度実施しているか。</p>	<p>当企業団では、年間約1,000kmの調査を行っている。今後もこの規模の調査を維持して、漏水を発見していきたいと考えている。</p>
<p>市原市の県営水道はかずさ水道の水を買っており、市原市営水道は県営水道に合わせて低額に抑えているため、同じ水を安く飲んでることになるがその現状についての認識はどうか考えているか。</p>	<p>市原市営水道は、県営水道の料金にあわせるため、市原市からの一般会計の補助金を活用し、水道料金を抑えている。</p>

令和5年12月8日（金）18：30～20：00 富津公民館（富津市） 来場者：33人

質疑等	回答
「広域連合ビジョンについて（概要）」の7ページで、写真について袖ヶ浦市のものがないが、特に大きな災害や事故はなかったということか。	こちらのページの写真については、レイアウトの都合上3枚となっているが、袖ヶ浦市でも令和元年の台風15号で、永吉浄水場において、断水が発生した。
かずさ水道の老朽管の割合が示されているが、富津市域の老朽管の割合と、どのように解消していくつもりなのか教えてほしい。	令和4年度末の4市域の老朽管の割合については、富津市域は41.8%、君津市域は49%、木更津市域は33.8%、袖ヶ浦市域は8.6%となっていて、4市域の平均で35.0%ということで、富津市域は平均より少し多い状況である。 老朽管の解消については、統合にあたり令和元年度から令和10年度まで交付される、国の統合交付金を活用し工事を加速させている。 富津市域については、令和元年度から30年かけて老朽管を更新していく予定だが、老朽管の更新にあたっては、漏水が多い箇所などを集中的に選定しながら、効率よく進めていく。
「水道料金の改定について」の30ページについて、料金改定後の料金が示されているが、富津市域の1㎡あたりの単価を教えてください。	1㎡あたりのすべての平均単価で、富津市域は352.46円となる。
各市で説明会をやっていると思うが、料金値上げについて反対の意見はあるか。	会場では様々な質問や意見があるが、例えば料金改定の資料で、グラフで純利益が赤字になることを示しているが、その部分の説明が不足しているのではないかと、もう少し分かりやすく説明してほしいなどあるが、料金改定自体の大きな反対意見はないと認識している。
4市域の老朽管の更新が終わる年数を教えてください。	「君津地域水道事業統合広域化基本計画」の中で、木更津市域と袖ヶ浦市域については、令和20年度までに老朽管の更新を行う予定で、事業を進めている。君津市域と富津市域については、令和30年度までに老朽管の更新を行う予定で、事業を進めている。

令和5年12月12日（火）18：30～19：53 小櫃公民館（君津市） 来場者：18人

質疑等	回答
「広域連合ビジョンについて（概要）」の5ページで、「各種システムや事務処理方法が完全に統一されていないため、運営が非効率となっている。」とあるが、今後はどう改善していくのか。	「広域連合ビジョンについて（概要）」の13ページで、実現施策として「事務の効率化推進、一体化」と記載している。具体的には、使用しているシステムの大部分が令和6年度から統一することとなった。システム統一に5年かかってしまったが、今まで4市域の中で、2市域ずつ同じシステムを使用していたものをようやく統一することができる見込みである。これからは、事務の効率化が進むと考えている。

<p>「水道料金の改定について」の12ページで、県内水道事業体の中で2番目に職員が多いと記載があるが、規模と人員との割合は他団体と比較するとどうなっているか。</p>	<p>令和3年度末時点で説明すると、職員1人あたりの給水量については、千葉県平均が33.3万㎡で、当企業団は40.25万㎡。 また、職員1人あたりの給水人口については、千葉県平均が3,082人で、当企業団は4,040人。 最後に、職員1人あたりの営業収益については、千葉県平均が6,133万円で、当企業団は9,661万円となっており、当企業団の方が効率性が高い結果になっている。</p>
<p>「広域連合ビジョンについて（概要）」の9ページに将来見通しがあり、人口が減っていくので料金が上がるのは分かるが、人口が増えた場合は、料金が下がるのか。</p>	<p>人口が増えた場合は、料金の上がり幅が抑えられるというのが答えになるのかと思う。4市全体で人口がどう推移するのか、そこが次の料金に影響すると考えている。</p>
<p>どのような点を改善して努力したけども、値上げに踏み込まざるを得なかったというところが、説明になかった。諸物価の値上がりが、かなり効いてきていると思うが、より具体的な説明をしてほしい。</p>	<p>工事費の上昇がある中で、工事費の節減を図るため、ダウンサイジングの検討や工事の発注時期を見直して発注工事を大規模化するなど、事業の見直しを行っている。 また、物価高騰による電気料金などの諸経費増加への対応としては、浄水場の運転管理の見直しや夜間の安い電力の活用、省エネルギー対策を検討している。 その他の検討としては、漏水が多いことが当企業団の大きな課題であるため、漏水調査について新たな技術の導入などを行っている。</p>

令和5年12月13日（水） 18：30～20：12 小糸公民館（君津市） 来場者：22人

質疑等	回答
<p>今回の説明会は、議決後の説明会となっていて結果を聞くだけとなっている。令和11年度に予定している料金統一時は、議決前の事前説明を行ってほしい。</p>	<p>5年後の料金見直し時については、検討したいと考えている。</p>
<p>「水道料金の改定について」の13ページで、業務委託の集約化と記載があるが、具体的に集約化されたものを教えてほしい。</p>	<p>大きいもので言うと、浄水場の運転管理を集約した。今まで4市域で、別々に浄水場の運転管理を遠隔で監視していたものが、統合したことによって、水道用水供給事業で使用している大寺浄水場に運転管理を集約し、効率化を図っている。</p>
<p>君津市域は広域型の水資源の供給地域だということで、木更津市域など他の市域は水資源に対する費用負担は考慮されているのか。</p>	<p>亀山ダムや片倉ダムの維持管理費については、4市域の使用した水の量に応じて、費用負担している。木更津市域や袖ヶ浦市域は使用水量が多いので、応分の負担をしている。</p>
<p>亀山ダムについて、ものすごく土砂で埋まっていると話を聞いた。そういった関係で、どうしても工事をしなければならない、という問題がでてくるのではないかと心配しているが、その場合にはどうなるのか。</p>	<p>亀山ダムについては、毎年堆砂が進んでいる。管理は、亀山ダム管理者に委託していて、負担金を当企業団も負担している。必要水量が保てるよう、浚渫（しゅんせつ）を毎年行っている。</p>

令和5年12月16日(土) 14:30~16:20 君津市立中央図書館(君津市) 来場者:50人

質疑等	回答
<p>市からの一般会計補助金がいくらあって、残り足りない分を利用者に負担してもらうことになると思うが、君津市域はどの分が足りないと理解すればよいか。</p>	<p>「水道料金の改定について」の7ページで、左側のグラフに君津市域の純利益が表されていて、今の現行料金でいくと、令和6年度から令和10年度の5年間で14.3億円の赤字となる。</p> <p>21ページで、料金改定した時の収支見通しがあるが、今回の料金改定で値上げした分と、プラスして市が営業助成補助金を約1.9億円負担した結果、5年間の黒字額は3.1億円となる。</p> <p>14.3億円の赤字から3.1億円の黒字までいくので、差し引きで17.4億円収支が改善している。改善している収支のうち、約1.9億円を君津市からの営業助成補助金で、残った15.5億円は水道料金の改定で確保する。</p>
<p>君津市域について、平均改定率が16%ということだが、料金表の説明で、基本料金と水量料金が約15%ずつ改定とあったがどういうことか。</p>	<p>君津市域の場合は、今後使用水量が減っていく見込みであるが、水量が減っていくと基本料金の比率が増えていくことになり、平均改定率より少ない改定でも供給単価が1%ぐらい上がる、という仕組みになっていて、これは技術的なことである。</p>
<p>水道料金については2か月に1回の集金だが、1か月ではダメなのか。</p>	<p>1か月に1回集金している団体があるのは承知しているが、当企業団は水道メーターの検針を2か月に1回行っている。君津市域の地区を2つに分けて、検針していくのが、一番効率が良い、コストパフォーマンスが優れている、ということで2か月に1回実施しており、千葉県内ほとんどの団体は、そのような形で行っている。</p>
<p>今日説明のあった「広域連合ビジョン」や前回の「君津地域水道事業統合広域化基本計画」があると思うが、それについて評価をした資料というのはどこかにあるか。</p>	<p>今までの「君津地域水道事業統合広域化基本計画」の評価については、当企業団のホームページに水道審議会のページがあり、毎年1回、決算状況や事業の進捗状況について報告しているものを掲載している。</p> <p>「広域連合ビジョン」については新たに作成するので、評価指標を作成し、毎年評価して検証していく。</p>

令和5年12月19日（火）18:30～20:10 平岡公民館（袖ヶ浦市） 来場者：9人

質疑等	回答
<p>公共施設マネジメントについて、旧君津広域水道企業団の庁舎であった新田庁舎は譲渡もしくは賃借をして、有効活用するべきではないか。</p>	<p>新田庁舎の資産整理については検討したが、売却や解体する場合は多額の特別損失を計上しなければならないので、今すぐの資産整理については断念した。 庁舎については、議場や、その他会議、他には災害時において応援団体の活動拠点とするなど災害時の利用を見込んでいるので、当面は廃止せずに有効に、当企業団で利用していきたいと考えている。</p>
<p>統合に伴い、市役所で水道料金の支払いが出来なくなったが、委託業者の営業所を市役所の中に移転させれば、市民の利便性が向上するのではないか。</p>	<p>昔は市役所での支払いが主流であったが、現在はコンビニエンスストアでの支払いが主流となっている。24時間自身の都合で支払いが出来るため、利便性があり利用が伸びていると考えている。 また、営業所の市役所内への移転については、営業所を検針員の拠点としても活用しているため、休日も含めて出入りが多くあり、セキュリティの面などを考えるとそぐわないと考えている。</p>
<p>水道管の統廃合について、例えば、木更津市の畑沢と君津市の陽光台のように、道路を挟んで、2市域の配水管が布設してあるような所は、統廃合するメリットがあるのではないかと思うが、どう考えているか教えてほしい。</p>	<p>陽光台は、久保配水場から現在水が配られているが、木更津の上烏田と君津の北子安と富津の上飯野、この3つの配水区から、久保配水区へ水を送る計画で進んでいる。畑沢の方から陽光台の方へ、水が行くように進めているが、上烏田から送るために、上烏田の配水池の更新を先に進めている。その配水池の耐震化と配水池の容量を上げる形で事業を進めているが、それが完成したら、陽光台は木更津から水が来る予定となる。</p>
<p>袖ヶ浦市は統廃合の計画があるのか。</p>	<p>木更津の伊豆島配水場と袖ヶ浦の吉野田配水場が近くにあつて、木更津の伊豆島配水場から吉野田の区域を賄うという計画がある。</p>
<p>袖ヶ浦市内で、いろいろな理由はあると思うが、水道を利用していない世帯がどれくらい居るのか。その理由について、経済的な問題なのか、位置が高いのでそこまで水道を引くのが大変なのか。</p>	<p>袖ヶ浦市域の令和5年11月時点の未給水の世帯数は、515世帯となる。給水区全体のうち、1.9%になる。 給水を受けていない世帯の理由としては、ほとんどは井戸などの自己水源を所有しているためと考えている。現在、井戸を利用している世帯が、水道を引くとすると、水道の加入金や、道路を掘って管を引き込む工事費、今まで使用していた井戸との切り離しの工事費等で、初期費用が多額となるため、経済的な理由も水道を引かない理由にあるのではないかと考えている。</p>

令和5年12月22日（金） 18:30～19:54 富津市民会館（富津市） 来場者：23人

質疑等	回答
<p>富津市域については、口径13mm・20mmと25mm以上で水量料金の体系が異なっていたが、富津市域以外の3市域では、このような優遇料金のようなものは、今までなかったのか。</p>	<p>他の市域には、こういった料金体系はなかった。 これまで富津市域は、前回の料金改定までは、基本水量というのがあり、1㎡から20㎡までは安くなっていた。一般の利用者の使用が安くなるよう配慮して、富津市域だけ導入していた。 そもそも富津市域は、4市域の中で一番高い料金となっているので、一般家庭の1㎡から20㎡までの一番少ないところの料金を、配慮するということで安くしていたところがある。</p>
<p>以前、「君津地域水道事業統合広域化基本計画」の説明があった時に、大佐和井戸は、10年後に廃止をするという話があった。現状は、大佐和井戸は使用しているのか。</p>	<p>大佐和井戸については、現在も使用している。 「君津地域水道事業統合広域化基本計画」では、将来的に廃止することとなっているが、できる限り長く使用して、水道事業用として廃止した後も、防災用として利用することなどを、関係機関と検討していきたいと考えている。</p>
<p>統合した時に、市域ごとに料金を別々にしたというのは、何かルール決めがあったのか。</p>	<p>統合にあたり策定した「君津地域水道事業統合広域化基本計画」における考え方は、統合から10年間は、4市域の料金は別々でやっていく、会計も独立して別々にやっていくこととした。 その理由は、4市域それぞれ水道の歴史が違い、管路の整備状況や施設の整備水準も違うことから、統合してから10年、20年で、交付金や各市からの出資金を活用して、施設整備水準を近づけていく。10年間で4市域の水準を同じには出来ないが、財務状況なども近づけていき、10年後に統一することとしている。</p>

令和5年12月23日(土) 18:00~19:52 平川公民館(袖ヶ浦市) 来場者: 13人

質疑等	回答
<p>袖ヶ浦市域について、大企業が使う口径のところではなくて、市民が使う口径のところの値上げ率が高いように思うが。</p>	<p>「水道料金の改定について」の33ページで、メーターの口径ごとに、現行の料金から令和6年度にいくら上がるかという表がある。口径13mmは、増加額が539円で10.8%の値上げ。20mmの方は、増加額が506円で6.8%の値上げ。25mm以上は、16%ほどの値上げとなっている。</p> <p>袖ヶ浦市域は、一般家庭の利用が多い13mmと20mmで97%の方が使用している。ここの負担が大きくなりすぎないように、工夫している。</p>
<p>老朽管の工事は、各市域どれぐらいの距離を行うのか。</p>	<p>令和6年度からの工事は年平均で、4市域合計35kmを目指している。木更津市域は17km、君津市域は9km、富津市域は5km、袖ヶ浦市域は4kmとなる。</p>
<p>「君津地域水道事業統合広域化基本計画」の時点では、袖ヶ浦市域は海側の開発を見込んでいなかった。料金改定を検討するうえでは、そういったことを踏まえて、考え直す必要があると思うが。</p>	<p>駅前開発があり、「君津地域水道事業統合広域化基本計画」と比べて、袖ヶ浦市域の人口は増えている。今回の財政シミュレーションは、赤字になるシミュレーションとなったが、これは駅前開発の人口も含めて、再検討している。</p>
<p>「水道料金の改定について」の4ページで、「繰越留保資金について、収益的支出の40%を目安とする」とあるが、これを35%とか30%とかに下げるとか検討したか。この指標は基準があるのか。</p>	<p>繰越留保資金については、全国いろいろ調べてみたが、水道料金の1年分確保しているところ、半年分のところ、3か月、4か月といろいろな事業体があって、これという決まりはない。</p> <p>当企業団の考え方とすると、「君津地域水道事業統合広域化基本計画」で4市域合計35億円としているが、おおむね2回の水道料金が入ってこなくても、おおむね事業が賄える程度ということで考えている。</p> <p>繰越留保資金については、現金が主なもので、日々の支払い資金に充てており、3月に工事等の支払いが増加する一方、補助金等が収入される前の時期に、一番資金が少なくなるが、万が一を考慮して1億円程度の余裕を見たなかで検討しているので、35億円を下回るような繰越留保資金というのは、今現在は考えられないところだが、令和11年度に予定している次期改定については、その辺りも含めて再度調査して、検討していきたいと考えている。</p>